



天文台だより

銀河の森天文台
2024 夏号
Vol.104

7/6(土)、毛利衛宇宙飛行士が銀河の森天文台にやってくる！

講演会「宇宙から見た地球生命のつながり」16時～17時30分開催

7月6日(土)、第13回陸別スターライトフェスティバルを開催します。今年は北海道余市町出身の宇宙飛行士、毛利衛氏をお迎えして講演会「宇宙から見た地球生命のつながり」を開催します。講演会の時間に合わせて、町内無料送迎バスを運航いたします。宇宙飛行士の話を聞くことのできる貴重な機会ですので、みなさま是非お越しください。

またスターライトフェスティバルを開催する7/6(土)は、開館時間を延長して深夜24時まで開館いたします。屋上広場に望遠鏡設置スペースを用意しますので、ぜひご自分の望遠鏡をご持参下さい。みなさまの愛機と一緒に星空を楽しみましょう。



「館長コラム」～夏～

夏至が過ぎて夜の時間が長くなってきます。ただ、陸別の7月、8月は晴れの日がとても少ない季節です。少ない晴間で夏の天の川に沿って見られるたくさんの星雲星団を見られます。双眼鏡を使うことでもっとよく見えてきます。無数の星の中に星雲や星団を見つけて



館長
津田浩之(双子座)

みてください。8月のペルセウス座流星群も注目のひとつです。今年は、早い時間だと月明かりの影響を受けてしましますが、月が沈む夜中から明け方が流星観望には適しています。月明かりに負けない明るい流星もありますので、晴れることを期待しましょう。

5月11日には、国内の広い範囲で低緯度オーロラが観測されました。これからもチャンスはありますので、ぜひ一度は見ていただきたいと思います。道内いろいろな場所で観測できますが、暖がとれることやトイレの問題、なにより低緯度オーロラのリアルタイムの状況を確認できる当館で観望するのがお勧めです。夜が長くなり晴れ間が多くなる9月以降はオーロラシーズンのはじまりです。こちらも注目してしてください。また、大きな彗星が地球に接近してきますので見どころはたくさんあります。

今年の仲秋の名月は、9月17日です。ススキとお団子を飾って名月を楽しんでみてはいかがでしょうか。

暦表

(陸 別 町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
7月 1日	3:44	19:14	24.6	—:—	14:23
7月15日	3:54	19:08	9.2	13:06	23:14
8月 1日	4:11	18:51	26.2	0:12	17:00
8月15日	4:26	18:32	10.7	15:20	23:37
9月 1日	4:45	18:04	27.7	2:21	17:32
9月15日	5:01	17:39	12.0	16:19	0:45

！！クマ出没注意！！

6/12、天文台の敷地内でヒグマが目撃されました。夜間、天文台周囲での天体観測等は行わない様、お願いいたします。

5/11(土)、低緯度オーロラが現れました！

5月11日(土)夜、低緯度オーロラが再び陸別の空を赤く染めました。

今回の低緯度オーロラは、北海道だけではなく本州でも観測されました。太陽で発生した複数回のフレアの影響が重なる事で、非常に強い磁気嵐となり本州でも観測される規模の低緯度オーロラとなった様です。

銀河の森天文台では、1日の来館者としては過去最多の1,001人が訪れ、多くの方がオーロラを観察しました。

新職員紹介：寺内大貴(山羊座)

4月1日より銀河の森天文台で勤務しております寺内と申します。星についてはまだ分からないことも多いですが、皆様に満足していただける案内ができるよう日々勉強中です。

銀河の森天文台は町からの光も少ないので夜空を見上げると、いつもより星の数も増え、ちょっと特別な空になるかもしれません。星座や星について知ると、夜空を見上げるのが一層楽しくなります。皆様の楽しいをお手伝いできるように精一杯頑張っていきます。よろしくお願いします。



天文行事&暦

7月

- 6 第13回陸別スターライトフェスティバル
●新月
小暑(24節気:太陽黄経105°)
- 15 特別開館
- 21 ○満月
- 22 水星が東方最大離角
(光度:0.5等, 離角:26° .9)
- 大暑(24節気:太陽黄経120°)
- 24 振替休館
- 25 土星食(陸別:始6:29、終7:28)
- 31-8/11 天の川と夏の天体観望会

8月

- 7/31-8/11 天の川と夏の天体観望会
- 4 ●新月
- 7 立秋(24節気:太陽黄経135°)
- 10 旧七夕
- 12, 13 ペルセウス座流星群観望会
特別開館
- 12 ペルセウス座流星群が極大
(PM11時 最大60個/時)
- 20 ○満月
- 22 処暑(24節気:太陽黄経150°)

9月

- 3 ●新月
- 4-15 土星と夏の天体観望会
- 5 水星が西方最大離角
(光度:-0.2等, 離角:18° .1)
- 7 白露(24節気:太陽黄経165°)
- 9 土星が衝(0.6等, 視直径19" .2)
- 17 中秋の名月
- 18 ○満月
- 21 海王星が衝(7.7等, 視直径2" .4)
- 22 秋分(24節気:太陽黄経180°)

夏のイベント情報 !!

☆第13回陸別スターライトフェスティバル

開館日を記念して、皆様と一緒に星空を楽しむイベントを開催します。この日は夜12時まで開館時間を延長します！

開催日時: 7月6日(土) 午後2時～午後12時

講演会: 午後4時～午後5時30分

☆天の川と夏の天体観望会

イベントの期間中は月明かりの影響が少なく、暗い夜空に天の川を楽しめます。望遠鏡では天の川周辺の夏の天体を観望します。ぜひ、ご来館ください。

開催日: 7月31日(水)～8月11日(日)

説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

☆ペルセウス座流星群観望会

今年のペルセウス座流星群は8月12日午後11時に極大時刻を迎えます。流れ星が多いと予想されるこの期間に観望会を開催します。

開催日: 8月12日(月)、13日(火)

説明会: 午後7時30分から

☆土星と夏の天体観望会

見頃を迎える土星と夏の天体を観望します。望遠鏡では、土星の輪などじっくり観察することができます。

開催日: 9月4日(水)～9月15日(日)

説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜のみ)



コラム:暮らしと宇宙「赤い空」

こここのところ、「低緯度オーロラはどんなふうに見えるの?」と、ご質問をいただくことが増えました。私も肉眼で見るのは初めてでしたが、今まで聞いた「色までは分からず、ぼんやりと空が明るくなる感じ」「どす黒い赤に見える人もいる」「月明かりがあると難しい」という表現そのまま、なるほど、本当にそのとおりだなあ、と追体験をしたような印象です。

さて、低緯度オーロラは太陽風によりもたらされますが、それとは異なる原理で空を赤く染める現象として代表的なものといえば、太陽光の散乱による朝焼け・夕焼けがあります。低緯度オーロラは、日本からは必ず北側に見えます。そのため、北の空が赤い=オーロラ!と思ってしまうかも知れません。しかし、なかなかすぐにはそうも言い切れないのが切ないところです。例えば、日中の明るい時間が長くなるこの時期、太陽は北寄りの東から昇り、北寄りの西に沈むため、朝焼け・夕焼けも北の空へ広がりやすくなるなど、さまざまな可能性が考えられます。

ただ、いずれも広い目で見ると、太陽があり、地球に大気が存在するからこそ起こる、と捉えることもできて面白いですね。

今回の低緯度オーロラをきっかけに、空を眺める楽しさや天文現象の不思議さに、心が躍った方も多いと思います。お馴染みの現象も、貴重な現象も、それぞれの瞬間を、引き続き楽しんでいきましょう!(守)

天文台からのお知らせ

- ☆ 7月6日は夜12時まで開館時間を延長いたします。
- ☆ 7月15日は月曜日ですが、特別開館いたします。
- ☆ 7月24日は水曜日ですが、振替休館となります。
- ☆ 8月12日、13日は月曜・火曜日ですが、特別開館いたします。

プラネタリウム情報!!

プラネタリウムは、開館日の土・日・祝日のみの上映になります。
※7月6日(土)のプラネタリウム上映は終日中止となります。

定員: 10名(入館者先着順、受付にて整理券を配布)

上映時間: 午後3時、4時、5時(開館日の土・日・祝日のみ)

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100

URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp X(旧Twitter): @ginganomori_obs

